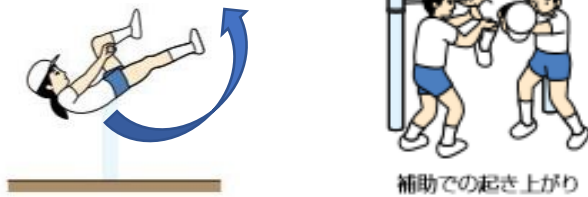


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	【知識及び技能】 後方片膝掛け回転の行い方を知るとともに、後方片膝掛け回転に十分取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 後方片膝掛け回転の練習を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 後方片膝掛け回転に進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。							
コア技術	① 肘と背筋を伸ばして、回転半径を大きくし、勢いよく倒れこんでいる。 ② 回転後半は、肘を曲げ、上半身を丸め、手首を返して起き上がっている。							
めあて	学習の進め方を知り、学習のめあてを持とう。	膝掛け振り上りをしよう。	後方への膝掛け振り上りをしよう。	後方片膝掛け回転のポイントを考えよう。	補助付きで後方片膝掛け回転をしよう。	後方片膝掛け回転をしよう	自分に合った場を考えて、練習しよう。	友だちのいいところを見つけよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方片膝掛け回転の予備的な運動 （１） かかえ込み後ろ回り  （２） 膝掛け振り上り 片膝を掛け、前後に何度か大きく振動させて上がる。  ① 掛けていない方の脚をピンと伸ばしつま先に力を入れて上体と連動させて真下に向かって振る。 ② 上体も脚を下に下ろすと同時に上の方に向かって振る。 ③ 「１・２・３」のタイミングで振りを徐々に大きくしていき、３のタイミングで手を返しながら上体を起こす。 かかわりあい 声かけ 「い～ち、に～の、さん！」 スイングに合わせて口伴奏をする。 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方への膝掛け振り上り練習 ① 掛けていない方の脚をピンと伸ばしつま先に力を入れて上体と連動させて真下に向かって振る。 ② 「１・２・３」のタイミングで振りを徐々に大きくしていき、３のタイミングで手を返しながら上体を起こす。  かかわりあい 補助 ・ 補助①②技を行う児童と反対側に立ち、起き上がりの補助をする。 声かけ 「い～ち、に～の、さん！」 スイングに合わせて口伴奏をする。 3. 補助後方片膝回転 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方片膝掛け回転の練習 （１） 補助後方片膝掛け回転 お手伝いの仕方を確認する。 （２） 後方片膝掛け回転 ① 鉄棒に片膝を掛けて背筋をピンと伸ばす。 ② 鉄棒から後方に倒れるときに、胸を反りながら倒れることで回転力が大きくなる。 ③ 起き上がる動作は膝掛け振り上りの練習で行ったように手首で鉄棒を押すように返す。 かかわりあい 補助 ・ 補助①②実施者と反対側に立ち、回転の後半の補助をする。 声かけ ① 「背骨ピン！ 遠く見て」 ② 「倒れる！」 ③ 「最後、押す！」 協力 ・ 背筋が伸びていたかどうかを伝える。 ・ 回転力がどうだったかを伝える。 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 後方への膝掛け振り上り練習 3. 後方片膝掛け回転 ※ 班の友だちの課題に応じて、補助の仕方や声かけの仕方を選び課題を解決できるようにする。 4. 前方膝掛け回転の練習  ① 前に乗り出して頭が鉄棒から遠くを回るようにする。 ② 肘と背中をしっかりと伸ばして回る。 5. 学習のまとめ 6. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 本時のめあての提示 発表方法の確認 3. レベルに合わせた練習 4. 発表会 VTRの確認 技の出来映えについて助言し合う。 かかわりあい 補助 ・ 補助①②技を行う児童と反対側に立ち、回転の後半の補助をする。 声かけ 「い～ち、に～の、さん！」 5. 学習のまとめ 6. 振り返り			
	指導上の留意点	「膝のサポーター」や「緩衝材」，「鉄棒の下のマット」など児童の全面的確保への配慮とともに「痛み」や「怖さ」を和らげるものを必ず準備し楽しみながら，積極的に取り組める環境を設定する。 	・ 振り上がりの学習をとおして、足の振りや腕の曲げ・伸ばしによる大きな振動と後転での上がり方，および補助の方法を学ぶことができる。 ・ 後方に上がる動きは，後方片膝掛け回転の中にポイントがある。	・ 後方片膝掛け回転ができた児童には，二回連続の後方片膝掛け回転や前方片膝掛け回転にチャレンジさせる。	・ 前方膝掛け回転へと発展させる際は，膝掛け振りから前方に上がる練習から入ります。その際，うまく上がれない児童生徒には，伸ばした脚を持ち上げるように補助をするとよい。 ・ 前方片膝掛け回転では，回転の前半で鉄棒を押して回転半径を大きくするために，鉄棒の握りは逆手にする。			
知		② 観察・ICT					② 観察・ICT	① 観察
思			① 観察			① 観察		② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	⑤ 観察		

単元の評価規準

【後方片膝掛け回転（鉄棒運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 後方片膝掛け回転の行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 前後開脚の支持の姿勢から後方へ上体と後ろ足を大きく振り出し片膝を掛けて回転し、手首を返しながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。	① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。 ② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 ③ 友だちの手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友だちに伝えている。	① 後方片膝掛け回転に進んで取り組もうとしている。 ② きまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けを，友だちと一緒にしようとしている。 ④ 友だちの考えを認めようとしている。 ⑤ 場や用具の安全を確かめている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 後方片膝掛け回転の行い方について、言ったり書いたりしている。	・ 後方片膝掛け回転の留意点を友だちや教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 前後開脚の支持の姿勢から後方へ上体と後ろ足を大きく振り出し片膝を掛けて回転し、手首を返しながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。	・ 後方片膝掛け回転を連続で行うことができる。また，前方片膝掛け回転ができる。

（２）思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。	・ 後方片膝掛け回転を習得するためにはどのような動きが必要かを考え，課題に応じて試行錯誤しながら取り組んでいる。
② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。	・ 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の動きをよりよくする行い方を選んでいる。
③ 友だちの手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友だちに伝えている。	・ 友だちの手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友だちに詳しく伝えている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 後方片膝掛け回転に進んで取り組もうとしている。	・ 後方片膝掛け回転や前方片膝掛け回転に進んで取り組んでいる。
② きまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく，グループの友だちを励ましたり，応援したりしている。
③ 場の準備や片付けを，友だちと一緒にしようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 友だちの考えを認めようとしている。	・ 友だちの考えを認め，実践している。
⑤ 場の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく，周囲の安全にも気を配っている。